

しづおか自治連だより

葵区 駿河区 清水区

平成23年4月現在人口724,026人 自治会・町内会数963

発行 静岡市自治会連合会／編集 広報編集委員会
2012年(平成24年)2月15日発行／発行部数 259,100部
連絡先:静岡市葵区追手町5番1号 TEL:054-221-1568
ホームページ:<http://jichikai.d2r-cms.jp>

- 第7号 -



第8回 静岡市暴力・飲酒運転追放、犯罪等に強いまちづくり市民大会

12月14日(水)静岡市民文化会館中ホールにおいて、犯罪と暴力のない、安全で住みよい地域社会の実現と、交通事故のない安全で快適な静岡市の実現をめざして、第8回「静岡市暴力・飲酒運転追放、犯罪等に強いまちづくり市民大会」が開催され、約1,100人の市民が参加しました。

第1部では主催者を代表して田辺静岡市長の挨拶があり、引き続き静岡市学区・地区別無事故・無違反コンクールの成績が優秀な12団体及び交通安全功労者4人に対して表彰状が贈呈されました。続いて交通安全永年活動功労者に対する感謝状の贈呈があり、30年感謝状、20年感謝状、10年感謝状、退会時感謝状が36人に贈呈されました。

その後、来賓のごあいさつ、ご紹介の後、10項目の大会スローガンを代表5名に統いて参加者全員が唱和しました。

最後に大会宣言を読み上げ、暴力追放・犯罪等に強いまちづくりと交通安全・飲酒運転の追放が宣言されました。



第2部は「犯罪被害者支援の立場から～和歌山毒物カレー事件を通じて～」と題して、被害者弁護団長大谷美都夫弁護士による講演が行われました。

講演では、小さな自治会の夏祭りで起きた大きな事件の生々しい事実と住民に与えた様々な影響、さらにはそれを支える人々の活動がわかりやすく説明され、大変参考になりました。

市民が一丸となって運動を展開し、またその意識を高める盛大な大会となりました。

新通学区暴力追放・交通安全決起大会が盛大に開催されました!

葵区新通学区の自治会連合会と連合婦人会は、静岡市や防犯協会等とともに、10月15日(土)、第14回新通学区暴力追放・交通安全決起大会を開催しました。

この大会は例年新通公園で開催し、警察の協力のもと、新通小学校シンフォニッククラブの先導によるパレードなどを行っていますが、今年はあいにくの雨模様で新通小学校体育館に会場を移しての開催となりました。雨天にもかかわらず住民や静岡中央警察署員等約330人が参加し、盛大に行うことができました。

新通学区は、1997年(平成9年)に稻川会系暴力団森田一家の組事務所が進出して以来、暴力追放運動を積極的に進め、2005年(平成17年)に地元住民の団結した活動により組事務所を撤退させました。

その後も暴力と交通事故のない、明るい住みよいまちづくりを推進するために毎年この大会を開催しており、老若男女を問わずたくさんの住民が参加して決意を新たにしています。



美しい富士山を未来へつなぐ 「2月23日は富士山の日です」

静岡初!「玉川トレイルレース in しづおか」

全国有数の清流「安倍川」上流に位置する安部奥「玉川地区」は、優れた自然環境を有する緑豊かな地域です。

当地区では、この大自然という大きな財産に注目し、地域活性化の新たな取り組みとして、昨年11月に「玉川トレイルレース in しづおか」を開催いたしました。



楽しい前夜祭

トレイルレースは、道なき野山を駆け巡り速さを競うもので、静岡市での開催は当地区が初めてとなります。

静岡の雄大な自然が織りなす起伏に富んだ地形と風光明媚な景色はコースに大変適しており、この恵まれた自然環境こそが少子・高齢化の進む当地区の活性化につながるのではないかと、一昨年から地域住民を中心に企画・準備に入りました。

そして、昨年「玉川トレッキングスポーツの郷づくり事業」の一環として、静岡市の中山間地域活性化支援事業「おらんとこのこれ一番事業」の認定を受けることができました。

その後、実行委員会を中心に桂山展望台をはじめとしたコース

の整備や選手のみさんの受け入れなどの準備を進めてまいりました。

大会前日の前夜祭では、郷土料理や伝統芸能などで選手の



さあ、スタート!!

みなさんをお迎えし、レースのみならず当地区の文化や人の温もりを感じていただくことができたと自負しております。

当日は、小雨の降るあいにくの空模様となりましたが、約500人の選手が36kmの大棚山、14kmの打越峠の各コースに挑みました。スタート地点となった玉川小学校や周辺の沿道には、この日を待ちわびていた地域住民が応援に駆け付け、当地区は活気と熱気に満ち溢れました。

走り終えた選手からは「このコースは走っていて楽しかった!」との声を多く聞き、大会の成功に手応えを感じております。

そして何よりの収穫は、このレースを通じて、地域住民が当地区の魅力、そして、絆をより深く感じることができたことです。

おらが自慢の足久保!

足久保は静岡市の西北部に位置する中山間地です。

近年は住宅地の開発もあり、若い新しい住民も増え、全国的な少子化問題の中にもかかわらず、静岡市でも数少ない児童数の増加がある地区です。

昨年の3月26日には葵大橋が開通し、今年初夏の開通予定である新東名インターへも数分で行くことができます。

足久保の産物はお茶、しいたけ、筍等です。特にお茶は今から約800年前の鎌倉時代に宋から帰国した聖一国師が、お茶の実をこの地に蒔かれたのが、足久保茶の始まりであり、静岡茶の始まりと言われています。

以来、時代時代の支配者に珍重され、徳川時代は献上茶として納められ、人々の生活を支えてきました。そのため地区に伝わる昔話もお茶にまつわるものが多く残されています。お茶は足久保の単なる農産物ではなく文化と歴史であり、まさしく私たちの宝物です。

しかし、日本一おいしい足久保茶ですがペットボトルの普及により、急須でお茶を飲む人が減り、お茶の価格は下落の一途をたどっています。このままではおいしい足久保茶の生産が益々減っていくのではと思いつ、自治会連合会と農家が一緒になり「足久保茶のブランドづくり」に取り

組むことにしました。幸いにも、9月26日に静岡市の中山間地地域活性化支援事業、おらんとこの「これ一番」事業

に認定され、11月には当地区対象にお茶祭りを開催したところ1,500人以上の来場者が有り、茶農家も自信を深め今後もいろいろな事業を計画しています。

このように地域的には明るい未来の足久保ですが、山間地も多く、昨年7月19日の台風6号襲来の時には奥長島地区と口長島地区に「土砂災害による避難勧告」が出されました。初めてのことでもあり、戸惑いもありましたが、地区住民の協力と市当局の適切な指示で無事に対応できました。しかし、その時の経験により、改めて自主防災の取り組みの必要性を感じ、本年度は、地区ごと独自の防災訓練を実施しました。

これから足久保に生まれ育った子供たちが、世界のどこへ行っても胸を張って自慢のできる郷土にしていきたいと私たちは思っています。

お水も、空気も、お茶も美味しい足久保へぜひ来て見てください。



あしきば 家康公のお茶祭り



足久保のお茶の架け橋

■ ロッシーのふるさとを守り、美しい環境を未来の子供たちに残そう!

【明るい駿河区 みんなでエコライフプロジェクト】

今年は、「エコロジー＆エコノミーライフ」を地域で呼び掛けています。地球温暖化により、環境は悪化し、ロッシーのふるさと北極は氷が解けはじめ、動物たちの生活も脅かされています。

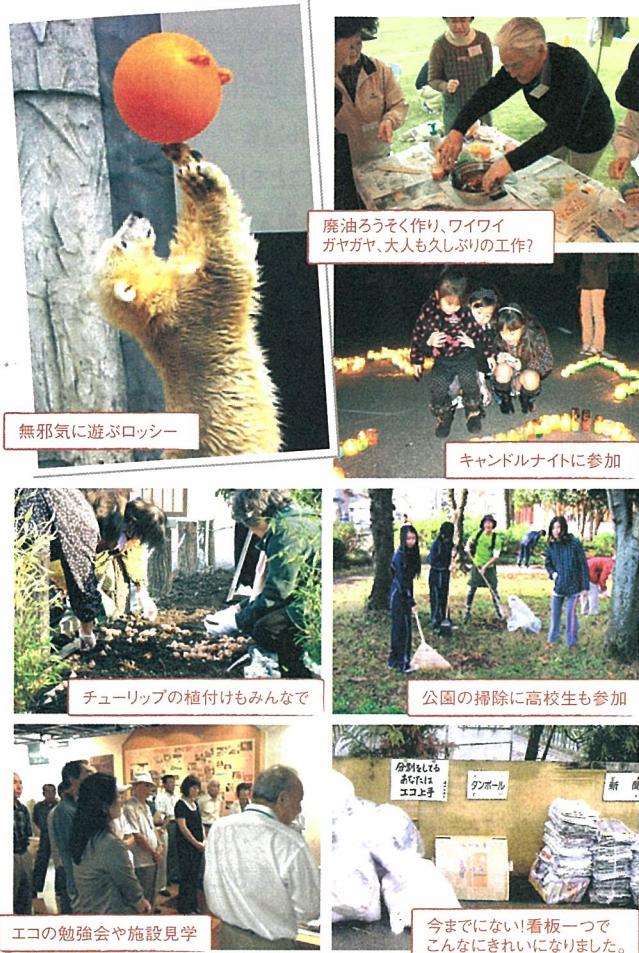
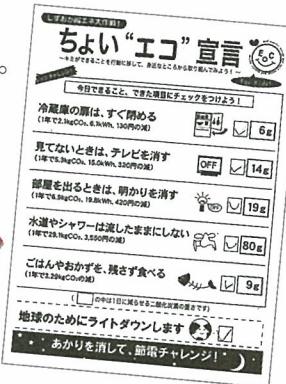
折しも、全国的な省エネ対策・節電モードですが、部屋の灯りを消して、地域のキャンドルナイトに出かけたり、みんなお手入れした公園のお花見なんていうのも盛り上がりますね。きれいな駿河区をめざして呼び掛けてきた「みんなでお掃除の日」は、年々参加者が増えています。公園・道路・家の周りで、小さな子供連れのお母さんやおじいちゃん、小学生やご近所主婦もお話ししながらみんな楽しそうです。

【明るい駿河区 みんなでエコライフプロジェクト】に楽しく取り組みましょう。また、みんなで地域の行事やまつりを継承し、たくさんの思い出を子どもたちに残したいですね。

今年の活動をたくさん紹介していきます。

103人のエコ宣言!

全員一年続けたら約449,000円、1世帯当たり4,360円の節約は嬉しいです。エコ宣言・電気量調べは、CO₂削減量や家庭での省エネ効果が見えて、次への意欲につながります。



■ 「第13回丸子宿場まつり」開催迫る

丸子の名物「とろろ汁」が出迎えます!

江戸から20番目の丸子宿は、東海道五十三次の宿場の中で最小の宿場と言われていますが、大きく変身します。

13回目となる丸子宿場まつり、今年はさらにバージョンアップして開催します。地元はもとより、近郊からの多くのお店が宿場を埋めます。

昨年好評だったとろろ汁は、地元生産者が大勢の人に提供できるように準備をしています、東北大震災応援コーナーを設けた販売もあります。

記

日時: 平成24年2月25日(土・前夜祭) 19時~21時
2月26日(日) 9時~15時

小雨決行

場所: 東海道五十三次・丸子宿 (駿河区丸子7丁目)

問合せ: 丸子まちづくり(協) 050-1572-5431

※駐車場は近郊に用意しますが、収容しきれませんので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



おいらん



厄除け修行僧

第39回三保地区文化祭

10月15日(土)、16日(日)の2日間、三保生涯学習交流館において開催された三保地区文化祭は、「文化の香り高いまちと人々のふれあいの場を大切に」をテーマに、地域交流や人ととのふれあいの場とすることを目的として、三保地区まちづくり推進委員会が主催する事業として行われています。

15日は前夜祭で東海大学翔洋高校と地元清水第五中学校の吹奏楽演奏会「第22回サンセットコンサート2011」が開催され、350人程が夕暮れ演奏会を堪能しました。

16日はオープニングセレモニーとして、三保保育園の園児による「少年少女冒險隊」のダンスで始まり、高齢者学級のはごろも大学の「太鼓クラブ」の演奏が行われ、文化祭の開幕となりました。

交流館で学習しているグループの作品展や地元各種

団体の模擬店、子ども達が習っているキッズダンス、ハワイアンダンス、個人で習っている歌や踊りなどが披露されました。

特に展示部門では、今年度注目されたのは「三保・アメリカ村」コーナーです。これは三保からアメリカなどに移民した歴史や生活を展示したものです。移民の歴史は明治18年に始まり、大正9年には831人が海外移住者となりました。

その後、時代を経て貴重な資料も少くなり、今回の展示となりましたが、当時の三保の人々の勇気とその気概を垣間見ることができました。



ハワイアンダンスの披露



三保・羽衣アメリカクラブコーナー

辻地区のまちづくり

辻地区コミュニティ祭りを11月13日(日曜日)に清水辻小学校グラウンドで開催し、延べ700名の老若男女の来場を得、地域の方々の笑顔を見ることができたことは、まちづくりの一環である親睦・連帯の絆を構築できたのではないかと、大会スタッフである各種団体関係者と共に安堵しております。

今年度は催し物が充実し、特別に由比地区連合自治会の協力により、「スポーツチャンバラ」を取り入れさせて頂きました。子供の試合、大人の試合、大勢の参加で賑わっており、改めて由比地区の皆様に感謝申し上げる次第です。

更に、未就学児童から小学生までのサッカー講習会や中学生等の模擬練習試合などの手ほどきをして頂いたエスパルスの皆様に感謝申し上げます。

手前味噌になるかもしれません、地域連携、連帯の旗印の下、朝早くから設営準備に奔走して頂いた各種団体の方々に御礼を述べたいと思います。

これからもより良い地域づくりを進めていきたいと考えております。



グラウンドにひしめく催事テント

浜田地区の地区まつり「はまだまつり」

第27回「はまだまつり」が10月23日の日曜日に浜田小学校体育館で行われた。

午前9時に子供達が打ち続ける浜田太鼓の勇壮な演奏でまつりが始まり、第二中学校のプラスバンド30余名の演奏は会場一杯に響きわたり、会場の全員が馴染み深い曲を十分に堪能することができた。



プラスバンドの演奏に聞き入る観客

ちびっ子の踊る「マル・マル・モリ・モリ」のダンスはステージ外のちびっ子まで加わって賑やかで可愛かった。夜桜新撰組、駿河舞虎の勇壮な踊り、裕香理会の津軽三味線の演奏は日本一だけあって、すばらしい技能と音響に感銘を受けた。毎年参加のナツメロ演奏のチンドン屋を先頭に防犯まちづくり、青少年育成推進会のパレード。赤い羽根共同募金、東日本震災救援金の募金運動。14の自治会、まちづくり委員会、小中学校、体育会、社協、保健、交通の各委員会、巴の園等多数のイベントが会場一杯に展開する。特に女性部主催のバザーは開会前より大勢の方々が並んで大盛会であった。最後に皆様が待ちに待った大抽選会が盛大に実施されて閉会となった。グラウンドより狭い体育館での「はまだまつり」であったが、却つて一層賑やかに展開して大盛会に終了することができました。